

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人体構造機能学Ⅱ		必修	2	1	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
坂本 宏史 他	教員控室	sakamoto	水曜日 10:00～13:00		
授業の目的・概要	人体構造機能学Ⅱでは、生命を活用する動物機能（骨格系、筋系、神経系、感覚器系）と人体を保護して種を保存する機能（皮膚、免疫系、代謝と運動、体温調節、生殖系、発生、老化）について学修する。また、自律神経や内分泌による生体の調節機構を学び、人体構造機能学Ⅰで学んだ様々な植物機能が調和して生命を維持するためにどのように調節されているのかを理解する。さらに、学外で行われる「肉眼解剖学実習」を通して人体の各器官の構造と位置関係を理解し、人体構造機能学ⅠおよびⅡで学んできたことを復習し、深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	本科目は、医療従事者にとって重要な基礎知識を学ぶ。予習・復習を心がけ知識を定着させて欲しい。また、授業に関する質問は、授業時間内外で受け付けるので（メールやteamsチャットも活用して）積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 第11版/著:坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀/医学書院/2022 系統看護学講座 準拠 解剖生理学ワークブック/編:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2022				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	骨・筋の構造について理解し、身体の支持と運動、筋収縮の特徴について説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
②	脳の構造と機能、脊髄の構造と各伝導路について理解し、説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
③	自律神経やホルモンの作用について説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
④	感覚器の種類、構造、機能、感覚器の障害について説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
⑤	ヒトが受精卵として始まるところから老化・死に至る身体の変化について説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	内臓機能の調節①:自律神経の機能・構造 [担当:坂本] 9/20	対面授業 (講義)	教科書 p241～247、ワーク p64・65 で予習・復習を行う。		1
2	内臓機能の調節②:全身の内分泌腺と内分泌細胞 [担当:坂本] 9/20	対面授業 (講義)	教科書 p254～273、ワーク p67～69 で予習・復習を行う。		1
3	内臓機能の調節③:自律神経の神経伝達物質と受容体・内分泌系による調節 [担当:鈴木] 9/27	対面授業 (講義)	教科書 p247～253、ワーク p66・67 で予習・復習を行う。		1
4	内臓機能の調節④:ホルモン分泌の調節・ホルモンによる調節の実際 [担当:鈴木] 9/27	対面授業 (講義)	教科書 p273～280、ワーク p70・71 で予習・復習を行う。		1
5	身体機能の防御と適応①:皮膚の構造と機能 [担当:坂本] 10/4	対面授業 (講義)	教科書 p435～439、ワーク p100 で予習・復習を行う。		1
6	身体機能の防御と適応②:生体防御の関連臓器 [担当:坂本] 10/4	対面授業 (講義)	教科書 p447～450 で予習・復習を行う。		1
7	身体機能の防御と適応③:生体の防御機構 [担当:鈴木] 10/11	対面授業 (講義)	教科書 p439～447、ワーク p101・102 で予習・復習を行う。		1
8	身体機能の防御と適応④:体温とその調節 [担当:鈴木] 10/11	対面授業 (講義)	教科書 p451～457、ワーク p103 で予習・復習を行う。		1
9	身体の支持と運動①:骨格と骨の連結 [担当:坂本] 10/18	対面授業 (講義)	教科書 p283～292、ワーク p72～74 で予習・復習を行う。		1
10	身体の支持と運動②:骨格筋、体幹の骨格と筋 [担当:坂本] 10/18	対面授業 (講義)	教科書 p292～306、ワーク p73～79 で予習・復習を行う。		1

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

11	身体の支持と運動③: 骨格筋の収縮機構・骨格筋収縮の収縮と特性 [担当:鈴木] 10/25	対面授業 (講義)	教科書 p339～348、ワーク p86・87 で予習・復習を行う。	1
12	身体の支持と運動④: 不随意筋の収縮の特徴・運動とエネルギー [担当:鈴木] 10/25	対面授業 (講義)	教科書 p348～355、ワーク 87 で予習・復習を行う。	1
13	身体の支持と運動⑤:上肢の骨格と筋 [担当:坂本] 11/1	対面授業 (講義)	教科書 p306～320、ワーク p80・81 で予習・復習を行う。	1
14	身体の支持と運動⑥:下肢の骨格と筋:頭頸部の骨格と筋 [担当:坂本] 11/1	対面授業 (講義)	教科書 p320～339、ワーク p82～86 で予習・復習を行う。	1
15	生殖・発生と老化①:胎児と胎盤 [担当:鈴木] 11/8	対面授業 (講義)	教科書 p482～489、ワーク p108・109 で予習・復習を行う。	1
16	生殖・発生と老化②: 成長と老化 [担当:鈴木] 11/8	対面授業 (講義)	教科書 p489～499 で予習・復習を行う。	1
17	生殖・発生と老化③:男性生殖器和女性生殖器 [担当:坂本] 11/15	対面授業 (講義)	教科書 p461～475、ワーク p104・105 で予習・復習を行う。	1
18	生殖・発生と老化④: 生殖細胞と受精・初期発生と着床 [担当:坂本] 11/15	対面授業 (講義)	教科書 p475～482、ワーク p106～108 で予習・復習を行う。	1
19	情報の受容と処理①:神経溝の構造と機能 [担当:鈴木] 11/22	対面授業 (講義)	教科書 p359～368、ワーク p88・89 で予習・復習を行う。	1
20	情報の受容と処理②:脊髄と脳 [担当:鈴木] 11/22	対面授業 (講義)	教科書 p368～383、ワーク p90～93 で予習・復習を行う。	1
21	情報の受容と処理③: 脊髄神経と脳神経・運動機能と下行伝導路 [担当:坂本] 11/29	対面授業 (講義)	教科書 p383～392、ワーク p91～93 で予習・復習を行う。	1
22	情報の受容と処理④:感覚機能・体性感覚と上行伝導路 [担当:坂本] 11/29	対面授業 (講義)	教科書 p393～397、ワーク p94 で予習・復習を行う。	1
23	情報の受容と処理⑤:耳の構造と聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚 [担当:鈴木] 12/6	対面授業 (講義)	教科書 p408～415、ワーク p97・98 で予習・復習を行う。	1
24	情報の受容と処理⑥:痛み・脳の統合機能 [担当:鈴木] 12/6	対面授業 (講義)	教科書 p415～432、ワーク p99 で予習・復習を行う。	1
25	情報の受容と処理⑦:目の構造と視覚 [担当:坂本] 12/13	対面授業 (講義)	教科書 p397～407、ワーク p94～96 で予習・復習を行う。	1
26	「肉眼解剖学実習」に向けた学習 [担当:坂本] 12/13	対面授業 (講義)	配布資料で復習を行う。	1
27	「肉眼解剖学実習」	講義・実習	教科書、ワーク、授業内で配布した課題を確認する。	1
28	「肉眼解剖学実習」	講義・実習	教科書、ワーク、授業内で配布した課題を確認する。	1
29	「肉眼解剖学実習」	講義・実習	教科書、ワーク、授業内で配布した課題を確認する。	1
30	「肉眼解剖学実習」	講義・実習	教科書、ワーク、授業内で配布した課題を確認する。	1
試	筆記試験			

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に筆記試験を実施して評価する(全体評価の70%)。試験では、各単元の基礎知識を問う問題とし、教科書・ワークブック・授業で配布する課題から出題する。				テスト結果の開示を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①	✓	授業で提示する課題の提出にて評価する(全体評価の30%)。				確認・評価の後、返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	鈴木敦子、 肉眼解剖学実習時には、人体構造機能学 I を担当する志茂聡、成昌燮も参加指導する。						
教員の実務経験	担当教員は解剖学・生理学で博士号(医学)を取得している。						
実践的授業の内容	人体の構造(解剖)と機能(生理)に関して、看護実践に重要なことに焦点をあて、疾病の発症機序および治療、日常生活との関係等を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能を理解する。この授業では、生理学や人体解剖学に長年携わってきた教員により、経験に基づくそれぞれの視点から人体の構造や機能についての具体的な解説がなされる。医療職を志す受講者にとっては実際に即した知識を獲得できる。また受講者の疑問にも、教員の専門性と経験を生かして丁寧に対応していきたい。						
そ の 他	「肉眼解剖学実習」は、山梨大学医学部解剖学実習室に於いて実施予定。詳細は、後日連絡する。						